

令和7年度 学校だより



くじらなみ

HP <https://www.kenet.ed.jp/kujira/>

柏崎市立鯨波小学校

(TEL) 22-2389

(FAX) 20-1766

令和8年1月20日発行

No.10

心月輪（こころげつりん）

校長 姥貝 栄次

令和8年（2026年）が明けました。本年もよろしくお願ひいたします。本年も子どもたちが一層元気に、そして安全に活動できるよう、教職員一同、精一杯努めてまいります。保護者、地域の皆様にもこれまでと変わらぬご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



先日、校長室にある金属製の壁掛けが気になり調べてみると、「心月輪（こころげつりん）」と書かれた銅器であることが分かりました。この言葉は、良寛さん（江戸時代後期の新潟県の僧侶）の言葉だそうです。この言葉の由来は、「ある時、良寛さんが知り合いの家を訪れるとき、桶屋が大きな鍋のふたを作っていた。ふたを削り終えた桶屋は、取っ手をつけるために溝を彫ろうとしたが、失敗してさけ目が入ってしまった。桶屋ががっかりして割ろうとしたので、良寛さんは、それはもったいないとその板をもらい受け、裏に『心月輪』と書いてその家に置いてきた。」とのことです。心月輪とは、現代語にすると、「理想的な心のあり方を何かに例えれば、丸い月のようでありたいものだ。」という意味で、「すべての人が月のような心をもつことを理想にして生きてください。」との良寛の教えが込められていると言われています。

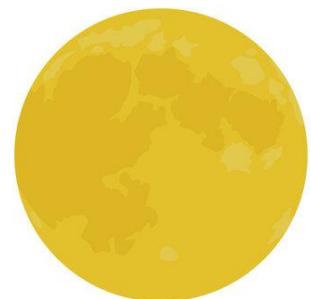
ちなみに、この銅器は、「燕三条の伝統工芸品の鎧起銅器（ついきどうき）の老舗、玉川堂」の作品のようです。

満月は、昔より生活に身近で、かつての暦は月の満ち欠けによるものであり、夜は月明りを頼りにしたり、月を時間の目安にしたりと、月は生活に根付いていました。また、様々なものに例えられ、平安時代の貴族、藤原道長は「この世をば 我が世とぞ思ふ 望月の欠けたることも 無しと思へば（この世で自分の思うようにならないものはない。満月に欠けるものないように、すべてが満足にそろっている）」と、満ち足りた自らの立場を詠みました。

藤原道長のような慢心は、さておき、良寛さんのように「丸い月のような心」をもちたいと常々思っていますが、なかなかそうはいきません。日々の仕事・家庭での生活においてイライラしてしまうこともあります。

そこで、今、「何も持っていないのに、なんで幸せなんですか？」人類学が教えてくれる自由でラクな生き方（奥野克巳・吉田尚記 著 『亜紀書房』）を読んでいます。著者が、ストレスまみれの日本を飛び出し東南アジアのボルネオ島に滞在し、そこで出会った「何もない」のに幸せな狩猟民「ブナン」の人々のことを書いた書籍です。

その中で、文化人類学者の奥野克巳さんは、「組織で何かを成し遂げようと思うと、落ち込むことが増えるだろう。ブナンの人たちの中には、大きなことを成し遂げようと思っている人はいません。そういう人たちが現実に存在するのだと知るだけで心が楽になります。ブナンのように生きていけると思うことが、最大のセーフティーネットである気さえしてきました。やはり逃げ場があるといいですよね。我々は内側に閉じこもっていると、自分たちが住む世界に外部があることを想像できません。つまり外側があって、我々とは全く違う考え方や振る舞いをする人たちがいて、そこから学ぶべきことがあるのです。これを教えてくれるのが文化人類学のよいところの一つですね。」と書いています。



令和8年1月の満月は3日(土)でした。2月の満月は2日(月)だそうです。満月を見つめながら、良寛さんの言葉を思い起こしてみたいものです。

校内書き初め大会

1月9日（金）に校内書き初め大会を行いました。冬休み中も書き初めに取り組んできた子どもたちは、この日も一画一画、丁寧に集中して書いていました。



子どもたちの作品は、29日の長なわとび大会まで玄関に掲示していますので、ぜひ学校にお越しの際にご覧ください。

薬物乱用防止教室～ダメ、ぜったい！～

1月14日（水）に5、6年生で薬物乱用防止教室を行いました。なぜ薬物がいけないのか、どのように危険が迫ってくるのか、動画や実物も見ながら学びました。「みんなの世界が広がるときこそ、危険が近付いてくる。薬物の危険性を学び、一人一人の夢や希望が叶う幸せな人生を歩んでいってほしい。」と、講師の柏崎ライオンズクラブ八子さん、品田さんは子どもたちにメッセージを送っていました。



そり遊び、楽しかった！

1月14日（水）に1年生は高柳ガルのスキー場でそり遊びをしました。天気が心配でしたが、ふわふわの雪が積もっていて、「大きな雪玉ができる！」と子どもたちは大喜びでした。鯖石小学校の1、2年生とも一緒に雪だるまを作りて楽しみました。



学校関係者評価委員会

1月14日（水）に、第2回学校関係者評価委員会を行いました。授業参観、給食試食会、そして今年度の教育活動の様子を振り返り、学校の取組についてご意見をいただきました。



- ・子どもたちが和気あいあいと勉強していて、いい雰囲気である。
- ・ゲームに夢中になって集中できない、視力が下がるという話がよく聞かれるが、鯖波小の現状も心配。

鯖波小学校として取り組んできた各種学校行事が、どのように西小学校に引き継がれていくかということも話題になりました。各学年の学習の中に鯖波、剣野、米山の各地域とかかわっていくことができるよう、検討中です。西小学校から声掛けがありましたら、ぜひ地域の皆様にもご協力をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【2月の主な予定】

2/ 2(月) 全校朝会	2/16(月) 21日の振替休業日	
2/ 3(火) 読み聞かせ 3,4年生校外学習（市立博物館） 元気アップ週間（～2/9）	2/21(土) 閉校式典	
2/ 4(水) スケート教室（3～6年生）	2/23(月) (祝)天皇誕生日	
2/11(水) (祝)建国記念の日	2/24(火) 全校朝会 職員会議	
2/13(金) イングリッシュデー（全校で米山小へ） 委員会⑮	2/26(木) くしら朝会 移動図書館	
	2/27(金) 委員会⑯	

学校評価アンケートへのご協力、ありがとうございました

ご多用の中、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。以下のとおり、結果は「A…十分達成した B…概ね達成した C…達成できなかった」の3段階で評価しています。

1 知育（友達とかかわり合いながら主体的に学ぶ子ども）

鯨波小の子は、友達との教え合い、学び合いを通して、学習内容を理解しています。また、家庭学習に苦手意識のあった子も「1人でもできる」と自信をつけています。

目標	○「友達と交流してよかったです」と答える子どもが80%以上	○次の授業や家庭学習につながる振り返りを書ける子どもが80%以上	○1週間を平均して学年×10分以上の時間家庭学習を行っている子どもが80%以上
主な取組	○自分の考えをもつ時間、伝え合いたいと願う場を週1回以上設定する。	○振り返りの観点を基に、授業の振り返りの場を設定する。次の授業や家庭学習につながる振り返りを書かせる。	○家庭学習カードを用意し、個に応じた学習内容を提案する。
評価結果	A ○アンケート結果より 児童肯定的評価 ・夏休み前 … 95% ・冬休み前 … 100%	B ○アンケート結果より 児童肯定的評価 ・夏休み前 … 54% ・冬休み前 … 54%	B ○アンケート結果より 児童肯定的評価 ・夏休み前 … 54% ・冬休み前 … 67% 保護者肯定的評価 ・夏休み前 … 86% ・冬休み前 … 60%

年間を通してどの授業でも子ども同士が関わり合いながら学ぶ授業を行ってきました。積極的に教え合ったり、自由に意見を言える雰囲気をこれからも大切にしていきます。



2 德育（自他のよさを認め合い、相手に寄り添って仲間とかかわり合う子ども）

友達への望ましい声掛けを実践し、各行事を成功させることができたという達成感をもつことができました。友達とのやりとりの中で自分のよさにも気付き、笑顔で登校しています。

目標	○「自分は役に立っている、認められている」と答える子どもが80%以上	○「行事の時に目指す姿のめあてが達成できた」と答える子どもが80%以上	○「相手と場面に合わせた気持ちのよい挨拶ができる」と答える子ども・保護者が80%以上
主な取組	○重点行事（運動会、学習発表会）で友達から頑張りや活躍を認めてもらえる取組を行い、紹介する。	○重点行事（くしら会祭、絆集会）の準備や本番で、児童が目指す姿である「相手が喜ぶ言動」を具体的に示し、指導する。	○児童の実態から、挨拶の実態を振り返らせ、相手に伝わる挨拶ができるよう指導する。
評価結果	B ○アンケート結果より 児童肯定的評価 ※（）内はよく当てはまる回答した率 ・夏休み前…100%(50%) ・冬休み前…87.5%(58.3%)	B ○アンケート結果より 児童肯定的評価 ・夏休み前…100%(54.2%) ・冬休み前…95.7%(50%)	B ○アンケート結果より 児童肯定的評価 ・夏休み前…100%(62.5%) ・冬休み前…87.5%(45.8%) 保護者肯定的評価 ・夏休み前…91%(59%) ・冬休み前…95%(50%)

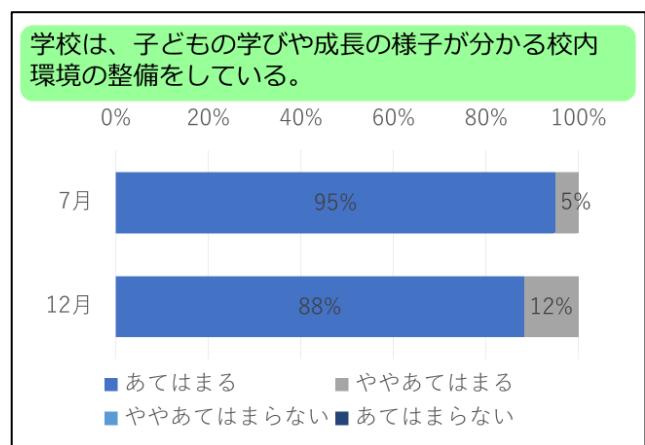
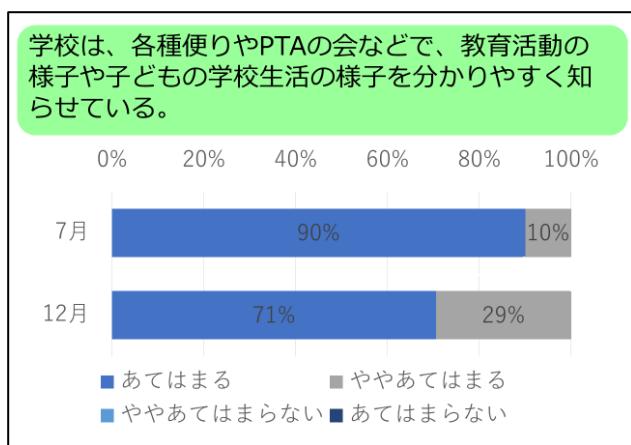
友達のがんばりを付箋に書いて送り合う活動は、鯨波小学校の伝統とも言える活動になっています。よいところを見つける目が育っていることは、嬉しいことです。よい挨拶も「自分から」できるように、取り組んでいきます。

3 体育（健康的な生活習慣を身に付け、なりたい自分に向けて進んで体を動かす子ども）

体を動かすことが大好きな鯨波小の子どもたちです。「がんばりカード」やipadで撮った動画、友達のアドバイスなどをもとに、自分の伸びや成長に気付くこともできました。			
目標	◎「学校で体を動かすことが楽しい／好き」と答える子ども・保護者が90%以上	◎「昨年度に比べて体力がついた」と感じる子ども・保護者が90%以上	◎「正しい生活習慣が身に付いている」と答える子ども・保護者が80%以上
主な取組	○児童が運動の楽しさを感じることができるようにスマートステップで場を設定する。	○児童がなりたい自分を目指して努力し、自身の体力向上が実感できるような場を設定する。	○自分の生活を振り返り、なりたい自分に向けて課題を見つけた上で元気アップ週間を実施する。
評価結果	A ○アンケート結果より 児童肯定的評価 ・夏…95.8%→冬…100% 保護者肯定的評価 ・夏…95.4%→冬…90%		B ○アンケート結果より 児童肯定的評価 ・夏…91.6%→冬…83.3% 保護者肯定的評価 ・夏…100%→冬…90%
授業では、一人一人に合ったレベルの課題を設定することで、学習に前向きに取り組み「できるようになった」「もっと難しい技に挑戦したい」という気持ちを高める子どもが増えました。生活習慣では、委員会の子どもたちが毎日呼びかけることで、全校の課題になっていた「早寝」も改善されてきました。引き続き、ご家庭でも生活習慣について話題にしていただきたいです。			

4 教育活動全般にかかわって

学校の教育活動全般にかかわって6つの質問項目を設定しました。どの項目についても、肯定的評価が80%を超える高い評価をいただきました。以下は、一部の結果です。



5 自由記述（一部）

- 先生方には各種イベント・行事を含め、本当に良く子どもを見ていただいていると思う。
- 西小学校にでも充実した学校生活を送れるよう支援をお願いしたい。

保護者の皆様から、教育活動への貴重なご意見をいただきました。子どもたちが元気に登校できるよう、日々送り出していただいていることに感謝しております。学年のまとめと新たなスタートに向けて子どもたちが自信をもって進んでいけるよう、職員一同、引き続き支援していきます。